

序 言

過去 20 年で、毎年平均 2 億人以上の人々が自然災害の被害を受けています。昨年の深刻な自然災害に関しても、2006 年 2 月 17 日フィリピンの南レイテ州で豪雨が引き金となった土砂崩れで全村が土砂に埋まりました。報告によると、土砂崩れによる死者は 200 人以上で、約 1,500 人が行方不明になりました。2006 年 5 月 27 日、M6.3 の地震がインドネシアのジョグジャカルタの人口密集地方を襲いました。死者は 6,200 人に達し、負傷者は 53,000 人でした。2006 年 7 月 17 日 M7.7 の強い海底地震がインドネシアのジャワ島南岸沖を襲い、津波を引き起こして木造建造物を押し流し、少なくとも 500 人の死者を出しました。これらの危機は防災に対する地域的連帯と協力が非常に重要であるという認識をもたらしました。

アジア防災センター (ADRC) は災害に対する科学的能力の開発支援に貢献するばかりでなく、防災の社会的側面に一層の注意を払うつもりです。ADRC は神戸国連人権問題調整事務所 (UN-OCHA) および国際復旧プラットフォーム (IRP) と協力的立場にあり、またアジアの多くの関係者達とも連携して働いています。ADRC とこれらのパートナー機関は総合的防災政策 (TDRM) として知られている災害危機軽減への総合的アプローチを策定しました。

“総合的防災政策:優良事例集” は TDRM のコンセプトと優良事例を記載した利用し易いハンドブックで、2005 年 1 月 18 日～ 22 日に日本の神戸で開催された災害軽減に関する国連世界会議用として発行されました。これに記載の“2007 優良事例集増補版”には世界規模の災害危機軽減に貢献すべく当該関係者達が知識を分かち合うために ADRC の加盟国によって提示された優良事例が記載されています。

さらに、引き続き皆様からの広範囲な優良事例をお教え頂く事は我々の非常な喜びとなります。私はこの出版物が TDRM のアプローチ推進を活性化させ、そして安全な世界の確立への努力に貢献する事を願っています。

2007 年 3 月

アジア防災センター

所長



鈴木 弘 二